



学校だより ～三力一心～

平 岩 小 中 学 校
校 長 室 通 信 No.8
平 成 2 8 年 6 月 8 日

鏡に映して・・・

この通信は、不定期ですが、
月2回ほど発行します。

今回は、校長の若かりし頃の反省からスタートです。

貫禄はなくても、一応教職30年を過ぎており、ここには書けないような失敗も数多く経験しています。その中で、子どもから教わって自分を変えるきっかけになったことを一つ紹介します。

初任の頃はまだまだ勉強不足で、「子どもは教師に敬意を払うはずだ」「子どもは教師の言うとおりに動くはずだ」という、かなり身勝手な考えをもっていました。しかも根っからの人見知りだったこともあり、子どもとのコミュニケーションも十分ではなかったような気がします。

朝は靴箱や教室で子どもを迎えていましたが、こちらが「おはよう」と挨拶しても、挨拶を返さない子どもや無表情のままボソッと挨拶する子どもがいて、それが気に障ることもしばしば。

ある時、ひとりの子どもに「もっと元気に挨拶せんか!」と注意すると、近くにいた先輩教師が「先生、鏡よ・・・。鏡。」と言われました。言われた意味が分からなかったのも、しばらくして先輩教師に尋ねたところ、「子どもの表情は、鏡に映った自分の姿と思いなさい。」とおっしゃいました。

おそらく、その先輩教師はずっと気づいていたのでしょう。頑張って登校してきた子どもに無表情で挨拶する若造の欠点を。しかも、相手に聞こえるかどうかという小さい声。指摘された当時は、それでも納得できていない自分がいましたが、年を重ねるごとに先輩教師の意味が理解できるようになりました。

「鏡は先に笑わない」

確かにそうですね。こちらが笑顔で挨拶すれば相手も気持ちよく返してくれる。こちらが先に「ありがとう」と言えば、相手からもお礼が返ってくる。そんな単純なことですが、若輩教師には全く見えていなかったというお話です。

特に、人の粗（あら）はよく目につくもので、毎日接する我が子に関しては見えすぎて困ってしまうくらい。でも、時々子どもを鏡として見てみると、意外と自分の行動とそっくりだったりします。

人格形成途中の子どもたちです。親の願い通りに子どもが成長するためにも、時々自身の姿を鏡越しに見ることも必要なかもしれません。



教育実習

何年ぶりでしょうか。本校で6月6日から教育実習が始まりました。

平岩小中学校4期生の松葉奈菜美さんが実習生として頑張っています。

今回は中学校英語の教員免許を取得するための実習です。スクールアシスタントの佐保先生の記憶によれば、中学校の頃から英語が得意だったようです。若さを生かして、子どもたちには英語の楽しさや異国文化などについて、存分に指導してもらいたいと思っています。

どのような仕事でもそうですが、始めた頃は全体像が見えず、技術も未熟なので苦労するのですが、そこで大事なのが先輩による指導。

特に、教員は経験に関係なく1年目から「先生」と呼ばれ、「指導者」として評価されます。めでたく採用になった時のために、指導教官だけでなく、平岩小中学校の全職員で「未来の教員」を育てたいと思っています。

ちなみに、松葉さんが平岩小中に在校しているときの1・2年生が、現在の8・9年生諸君です。こんなところにも小中一貫校ならではのつながりを見ることができます。

平岩小中学校ホームページ

本校のホームページは日々更新されています。すでにご覧いただいている保護者の皆様も多いかと思いますが、通信等で書き切れない様々な活動が紹介されています。担当の先生が切れ目なくピックアップをアップしてくれていますので、時間のあるときに是非開いてみてください。

説教は、その長さに反比例して、心に残る

ある心理学者が述べています。

事が起こると、相手が「はい」と首を縦に振るまで説教を続けてしまう。しかし、相手の心には全く響いていない。そんなことお構いなしに続けるものだから、相手の反省の意識はどこかへ飛んでしまう。

このことは、私たち教員も気をつけなければならないと思っています。簡潔で心に響く説諭の仕方がないものかと考えるばかりです。

叱り方って難しいですね。一つだけ言えることは、感情的になってはいけないということ。これまた、難しい(.;)

